

第2回就労準備支援事業連絡会議 会議記録

1 開 会

2 令和4年度の状況報告

【石狩】嵯峨さん

2件就労準備対象者継続中。新規1件チラシを見てご本人が窓口に来られた事例紹介。

20代男性。大学2年で退学しその後在学中から続けていた塾のアルバイトを2年継続するが、その後7年ひきこもり。定期的に外出し、社会参加の機会を作るために、無償ボランティアとして、配食サービスとデイサービスのイベント等に参加。その後は有償ボランティアの講座受講。ボランティア活動と併行し自動車学校に通学後自動車免許を取得。就職活動に向け、札幌わかものハローワークに登録。応募書類の書き方、模擬面接等準備を進め、昨年末内定をもらい、現在就労中。地域内で支援の幅を広げていきたい。

【後志】吉村さん

自立支援金申請12月で終了し、細々と2回目追加の報告を受け相談につながっているが、その後のつながりが見えてこない。

特に広域でやっている場合は地域の社協さんと連携し追跡、見守りし相談の継続としてつながりをもっていきたい。

一時生活支援事業も数件あり、地域の相談機関、介護分野、福祉事務所、社協と連携しながら、その方の生活、支援をどう組み立てるかが重大な課題と思っている。困窮につなげればなんとかなるのではなく、つないだ後地域がどう見守って支えていくかのしきみを一緒に考えていかななくてはならない。

就労相談のケース；36歳女性・うつ病 寛解の状態

受診しておらず落ち着いているので仕事に就きたい。12月に相談を受けて1月中旬に就労準備支援事業の面談をふって見たが、まだその準備ができていないということだった。2月中旬に面談予定のため、道社協にお世話になるかもしれない。スモールステップ^oで少しずつ就職に向けた意識作りをしている所。

【胆振】石原さん

7町を担当。昨年一人就労準備につながりそうな方がおり、59歳女性うつ病で診断受けているが療育の可能性あり。

就労意欲ある方で適性検査・能力検査ができないか？ハローワーク等で確認するも対応してもらえず、道社協に相談したが現状難しく、結果、病院に通院時先生と相談し療育で意見書を書いてもらい先日判定会議が終了し軽度療育の判定がでる可能性あり。今後、職業能力検査の判定テスト(レディネス・GATB)などあれば利用できるかと思ったので、今後よろしくお願ひしたい。

柳谷さん→苫小牧サポステはやっていないか？

石原さん→“自己理解”的なことはやっていたが、その他はやっておらず年齢的にも49歳までのため対象にならず。

【日高】布施さん(こみっと)

コンソーシアム7町5事業所 新ひだか町担当 就労準備支援R4就労に係るケースはなかった。相談に来られる方はお金の工面で困っている方が多い。家計改善で入りながら、地元社協の日常生活自立支援事業につなげるケースが2件あった。30代女性；家庭あり3人の子供。夫の発病にあたり就労できず。元々夫婦関係良くなく育児放棄状態で離婚され、親族の家に身を寄せるが関係悪く野宿をしていた。ネットで探し地元社協につながり自立さんへつながった。町内の女性のグループホームが空いており仮住まいし、一時生活支援を使い生活をしてもらった。本来仕事も探してということで就労準備につながる可能性もあったが、グループホームを運営している会社がクリーニング店を営んでおり「うちで働いてみない？」ということで現在も継続して就労中。

【渡島】長谷川さん・松田さん

就労準備で関わっている方は今年度3名。1名は前年度から関わっている方。長く関わっており、一般にもいけずB型にも行けず関わっている。もう一人は高齢で生活保護になった。もう一人がB型と就労準備併用して関わっている。B型の法人が一般就労も持っておりそこから一般就労を目指している。件数を増やしたかったが、居場所作りとして考えていた江差のB型の法人がニュースにもなってしまう、今使えない状態。振興局とも相談し、また時期をみて居場所作りから始めて見学希望者もいるため、次年度以降就労準備を使っていこうと考えている。

松田さん；体力面に課題がある方で、規則正しい生活を送ることに問題あり。そこが整えば進められると思うケースあり。

【上川】前田さん

成功事例はない。皆さん凄いと思ってあつけにとられていた。失敗は何件かあり、一番最近では再就職までいかと思ったが、内定辞退のケースがあった。50代男性で、社協から連絡あり借金を抱えており、今すぐ働かなければならず、就労先まで考えて応募してみたが、翌日辞退された。社協とも連絡とり合っているが、残念ながら失敗した報告。なかなか難しい。

松野→就職しなくてはということご本人もわかっている、いざとなると不安が起きることはあり、応募して内定ももらったら辞退してしまうケースもある。その不安が今の状態として、根気強く声掛けをしていただきながら、一歩ずつ前に進むようにしていけると良いのでは。

【留萌】鈴木さん

9月に入社したばかりで実績は殆どない。協力企業の開拓を今している。8市町村の企業に協力いただき受け皿はあるが、就労体験する方がおらず。就労体験に向けての行動もまだ知識不足。支援するにあたっての心遣いなどまだまだ知識不足なので、皆さんのご指導、いただければと思っている。

耳に入ってきた情報で、26歳男性2年間未就労。実際話をして就労する気はないのか？聞いたところ、「今困っていない。」実家において両親も働いており、お小遣いをもらってパチンコにも行けている。明日をも食べる米がないという状態ではなく、だから今働く気はない。そういう方のお話はよく聞く。実際に支援して下さいという話にはならない。候補の方が出た時は皆さんに教えて欲しい。

【稚内】中野さん・小濱さん

稚内社協が町村含め困窮事業に係っている。就労準備支援事業のケースは今はないが、地域にアウトリーチをかけていきながら活動していかなければならないと思う。小濱さん；30代女性 療育手帳もっており、犯罪歴あり。5年間札幌の刑務所に収監され戻ってきて3年経過。就労意欲あるが、仕事が決まっても1~2週間で仕事が覚えられず長期で務まらない。一般就労は無理なのでB型利用を進めるが、お子さんの保護者が務めている事業所のため子どもがいじめられたらかわいそうということで行けず。今は生保に繋がり1年。役場、社協から保護費の使い方がうまくいっておらず助言だけお願いしたいと言われ、生活保護世帯は支援できないことを伝えるが「そこをなんとか」と頼みこまれ振興局と相談し特例で助言のみ短期間対応。精神面でも浮き沈み激しく色んな所と繋がっていたが、浮き沈み多く、今繋がっているのは振興局の保護担当者のみ。豊富町在住で町内の福祉障がい者連絡会議で情報共有している。豊富町社協の協力で本人が家電壊れた時は洗濯機、冷蔵庫を提供してもらっている。炊飯器などももらっているが使い方を間違え壊れてしまった。知的に低いこともあり、施設入所を関係機関と検討し、宗谷管内近郊、旭川まで足を延ばしているが犯罪歴があることと、今住んでいる団地の不審火が3回連続起きており、疑いがかけられ聞きとりが行われている。旭川、宗谷管内の施設は全て断られ、札幌で1ヶ所入居決まり、春頃転居するのでは。就労の相談は来るが80歳近い男性で持病あるが就労意欲は高くハローワークに行くが難しい。町村内で家族の方からひきこもりの話も聞くが面談にはつながらず、本人に合えば同意を得て就労準備につながるのかと思っている。来年度は頑張りたい。

松野→80歳代でも元気な方はいる。ハローワーク求人のような雇用だけではなく、有償ボランティアのような体力がそんなにかからないようなことに参加するのも良いのでは…

【オホーツク】柳谷さん

就労準備2名。1名は精神疾患ありB型に移行。色々あるが継続中。もう一人は良い感じで進んでいる。元々さぼってサポステを利用していたが、遠方のため足が止まってしまう、就労準備で居場所作りをして、地元で活動できるようにした。社協協力でボランティアをつけて内職的な作業をし、その後スタッフが地元神社の協力で掃除のお手伝いをし、さらに多くの人の中で作業することで地元のB型事業所に居場所ということ受入れをしてもらい、12月から作業に通い始めている。今、診断はついていないが、療育手帳をとった方が良いのではと周囲も本人ももうすずす感じていたようだが、現在はB型事業所のボランティア体験で通いながら、そうした働き方もあることを体験してもらいたい。現在30代男性のプラン作りを進めている。自立の就労支援で仕事の提案をしていたが、持病によってなかなか動きだせずぼちぼち初めていこうということで就労準備を提案し本人の了解を得たところ。これから色々考えていきたい。

就労支援で協力企業や相談員開削先に就職した方もいるがいろいろあつての就職のためフォローしていきうちにまた躓いた時には就労準備の出番もあるかと思う。

松野→働きながらサポステ利用もあるのか？

柳谷さん→交流会に参加しながら働いている方もいる。気兼ねなく話せる場が続けられる秘訣か…

紋別、遠軽であれば月1回、何かあったらすぐ相談できる関係作りを進めている方がサポステ利用者にいる。

【十勝】中島さん

就労準備実績は2町3名利用者がおり。一つの町で30代40代姉妹。町で開設したひきこもり相談のLINE相談から。もう一人も町で開設したひきこもりの相談窓口で親御さんが心配して来られて町の取組みでつながっている。2人の姉妹は町村社協運営の介護施設のボランティア体験から今は福祉の有償ボランティアを経験し、新年度になると思うが、町の中での雇用になれば良いと話が出ている。30代女性はチャレンジ雇用で就労中。今後手帳を取得し配慮を得ながらハローワークを利用し一般就労を目指している。顔を合わせての面談で関係ができていくことから、本人迷わず次の段階に進んでいる。どちらも町が丸投げではなく本人についてくれており、心強い。これがなかったら難しかったかも…課題としては体験からお金を得る働き方につなげる流れが課題と感じている。みんなで考えていく段階と思う。自立相談で実施している就労体験で介護離職で10年働いていなかった50代の男性。1年間の心の整理を終え「やっぱり働きたい」という言葉を待ち、秋ぐらいから取組み、介護施設の就職につながった。勇気出して動けて良かったと働いている。

【釧路】相原さん・榎部さん

就労準備プラン6名になる見込み。

40代女性；元々働いていたが、低周波音で体調不良になり10年勤務した会社を離職し精神科に通われ3年間雇用保険・傷病手当・預貯金を頼りに生活していた。両親他界。その中でくらしごとの相談窓口に来られた。元々能力高い方で、大坂の会社が実施しているコインパキングのコールセンター業務第1期の研修に参加。この取組み自体が初めてで大阪の会社とzoomを活用しながら、場所は現地で確保しスケジュール、業務後のフォローは現地(釧路)業務内容の指示はzoomを通して大坂の会社の方で対応。3ヶ月研修受講中も最低賃金が支払われ、くらしごと内にコールセンターブースを作り、業務遂行中。現在2期生7名参加中。やってみて気づいたことは、障害者手帳がある、疑いがある方、ひきこもりがちの方でも一般就労したい方がおられ、仕事自体は1対1でお客様対応あり、コミュニケーション能力はそれなりに必要になるがPCはキーボードで入力が出来、話しながら簡単な検索ができれば業務はこなせるレベル。何より誰かと一緒に働くことがないので、発達障害で悩まされているような方で人間関係で躓くことは防げるし、くらしごとの同じ建物の中で研修・仕事ができ、本人の希望があれば最終的には自宅のPCで業務を行うこともできる。幅広い方々の社会参加の取組みとあってやっている。

榎部さん；生活困窮者全国ネットワーク理事。ブロック別研修就労準備を担当。九州・沖縄・中国・四国・近畿も対象者がいない。一人、二人と言われ、どう打開するかが大事。恐らく対象者の見方が違っているのだろうな…と感じている。昨年12月に社会福祉審議会でも重要な答申が出て、自立の考え方を生困も生保も三つの“自立”と定義つけた。保護の就労自立にあらざと明記したことが重要。生困も生保も同じ自立概念だということの中で述べていることが一つ。二つ目は生活困窮制度とは何

かということになるが、宮本先生が私たちはまだまだハイリスクアプローチ。生活に困っているね、経済的に困っているねという目線が強く、孤立・孤独・ひきこもりとか横の制度が届きにくい人々のアプローチ(ポピュレーションアプローチ)が非常に弱い。エンパワメントするためにこういう方(制度の届きにくい方)のエンパワメントとしての自立を目指したのが、生活者困窮者制度で実態としてはまだズレている。就労準備はまさにそういう意味での居場所でご本人たちの沸き立つきっかけがその中必要。設計上そのようなこととして考えなおしていくことが問われているのでは… 参加者が少ないということなので、障害の分野でダイバーシティということで就労移行型やA就労を手帳やエフコードがなくても働きづらさ、生きづらさを抱えている人に利用させようという流れがあるが、就労準備も同じ意味合い。縦化してきているので、横にどうやって拡げるかを実施機関含めて話していくことが大事なのではと考えている。

松野→自ら相談に来たのか？

相原さん→そうです。アウトリーチ2つ 1)インターネット上におけるアウトリーチ。以前はHPを作っておいておいただけ。見ても誰も問合せがこなかった。問合せフォームを自由記述のものではなくチェックをつける方式へ

①どんなことに悩んでいるか ②どんなお気持ちなのか ③名前・連絡先で送信するだけ。その後こちらから電話やメールで詳しいお話を聞いていく。これも作っただけでも誰もみしてくれないので、バナー広告と検索型広告を使い分け、グーグルで“釧路・相談”と検索すると“くらしごと”のHPが最上位にくるようにしかけたことでアクセス数が増え問合せが増え、もともと月1件が現在は毎月10件くらいくるようになった。町村に出向く巡回相談に法テラス弁護士さん2名同行で、生活困窮だけではなく幅広い相談の受け皿を作っている。

【なかしべつ】松浦さん・戸田さん

松浦さん；就労準備利用者無し。前回学生さんの利用質問→状況確認できたうえで利用可となったが、実際には利用しなかった。就労体験で体験中。

戸田さん；就労体験でアルコール消毒と文章の整理を実施し、就労準備につながればと考えていたが、継続してそこに行くことが難しく、支援員との面談ならできるということで、面談を継続しながら、本人のアセスメントを深めながらつながりを作っていけるか考えているところ。発達の問題もあり、学校も難しく通学できていない。学生のうちから課題を抱えている方も多く、その先の就労も見据えながらどんな取り組みを作っていけるかの状況。

3 地元町村社協との連携事例(後志振興局管内)平尾さん ※資料参照

- ・19町村担当 大きく4つの地区に分かれている。総合振興局は倶知安町にあり、余市町から車で50分ほどかかる。島牧、黒松内町だと2時間から2時間半かかるがあまりケースはなく行くことはない。
- ・全体で85,000人の所外国人が4,000人位。2020年のコロナ禍で外国人の相談がすごく増え、倶知安町ニセコ町在住の相談が殆どだったが、現在は落ち着いている。
- ・社協とのオンラインミーティングを開催している。相談ルートが地域によってバラバラ。社協からくる場合、役場の福祉課からくる場合など社協の介入度合いが異なる。
- ・オンラインミーティングは社協同士の情報交換がメインで場作りを意識して実施している。

[事例(2)の紹介]

- ・オンラインミーティングを通して各地域の格差(温度差)を感じる事ができたことが大きかった。
- ・場づくりとして役にたてた
- ・自立支援機関として社協とのつながりを深める事ができた。
- ・就労準備支援事業としては、知らない資源を実際にお話しすることで知ることができた。その地域の知らない所がまだ多いと感じた。
- ・対象者にとってもより多くの支援者を巻き込むことで選択肢を増やすことができることで、ご本人のニーズに応えることができると感じた。

[プラットフォーム整備事業の動きについて] (吉村さん)

- ・ルスツ村→地域起こし協力隊が古民家を改修して子どもの居場所づくりをしたい。活用できるか？振興局本庁含め話を進めている
- ・京極町→社協が1軒屋を買い取り地域住民がNPO法人化している“きょう・ここ”の活動費としてどうやっていくか？話があった。
- ・これからの活動として放課後児童デイで食事の提供をしたり、退職教員に勉強を教えてもらった時にボランティアの人件費的に使って良いか？などの具体的な活動をしている団体があり、窓口として係っている。
- ・時期も迫っているが、今後皆さんとも個別に情報共有できたらと思っている。

4. その他

[就労準備に係り1年を振り返っての感想(高田)]

- ・事業に係るご本人達の反応の変化をみるのが面白い。ご自身に自信がついていくこと、表情がだんだん明るくなっていく場面が見えたところに事業の面白さがみえてきている。
- ・来年度、国の方で就労準備支援の必須事業化の検討がでている。北海道に確認している所ではあるが、現段階では現行通りで考えている。道社協としてはプロポーザルに手を挙げていく方向。
- ・松野より3/末で契約満了により退職の挨拶

以上